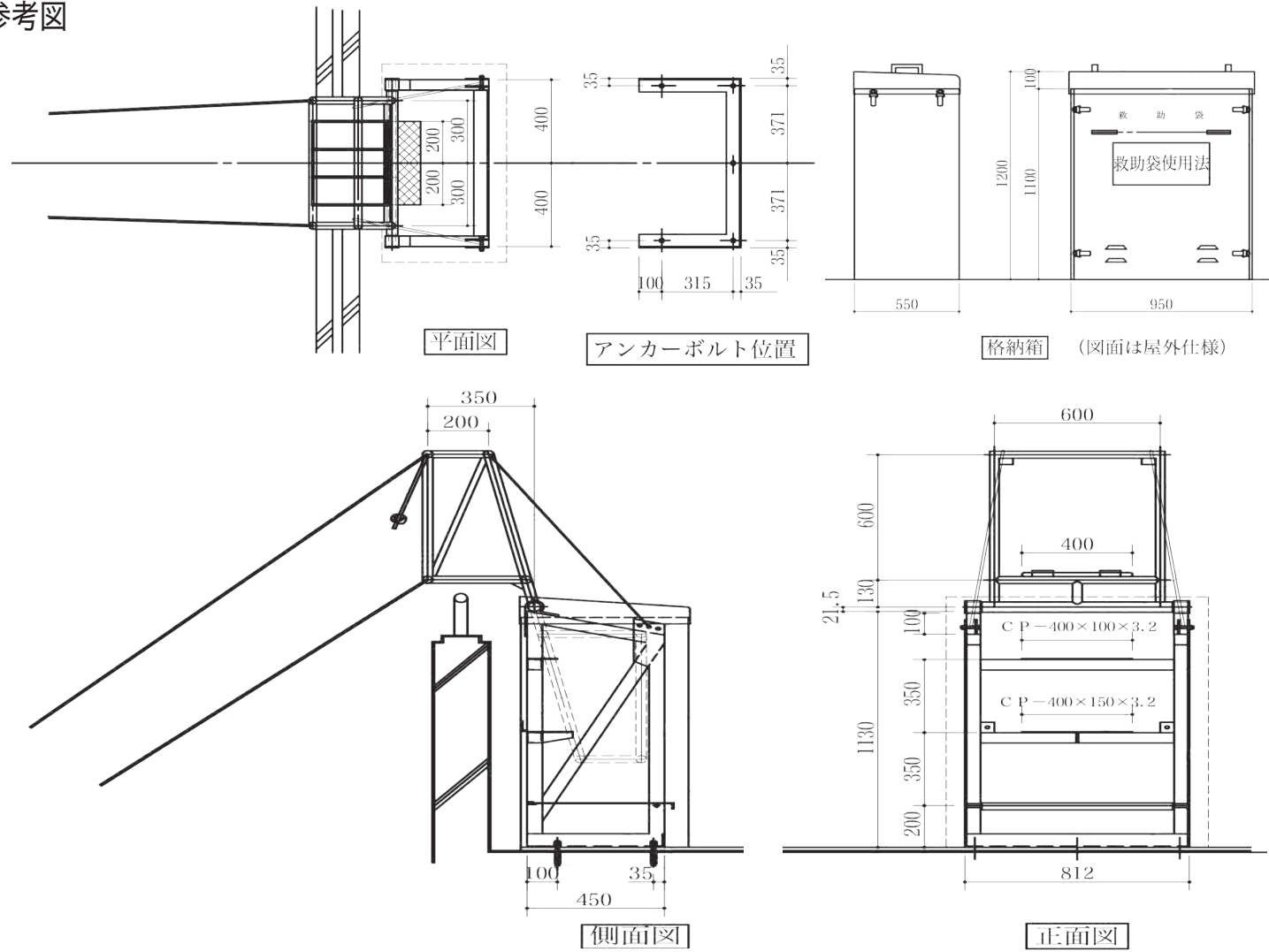


参考図



備えあれば 安心・安全ライフ **ORIRO**

ORIRO 斜降式救助袋

斜降式救助袋の主要材料

袋本体

名称	品名	規格
袋本体布	ポリエステル4号	引き張り強さ タテ、ヨコ1,000N/3cm(100kg)以上
落下防止布	ポリエステル4号、5号	引き張り強さ タテ、ヨコ1,000N/3cm(100kg)以上
受布、覆い布	ポリエステル4号、5号	引き張り強さ タテ、ヨコ1,000N/3cm(100kg)以上
展張部材	ポリエステルベルト	引き張り強さ 145,000N×2本(1,450kg)3×30

取付具

名称	品名	規格
取付金具	鋼材	L-50×50×6、L-65×65×6、□-50×50×2.3
入口金具	一般構造用鋼管	27.2φ×2.8、34.0φ×3.2、42.7φ×3.5

格納箱

名称	品名	規格
鋼板	ボンデ鋼板1.2mm	粉体焼付塗装仕上
	ステンレス鋼板1.2mm	ヘアライン仕上
取手	亜鉛合金 サチライトクロムメッキ仕上	

固定環

名称	品名	規格
鋼板	スチール製(さび止め下地塗装)	139×139×16 (上蓋)
	ステンレス製(鏡面仕上)	140×140×16 (上蓋)

その他

名称	品名	規格
縫糸	ナイロン	#5、#2
誘導ロープ	PPマルチフィラメント	16打、6φ、オレンジ
吊りロープ	ワイヤロープ	6φ、8φ、10φ、12φ
保護マット	フェルト	10mm以上
取手	ナイロンベルト	50×2
下部支持装置	滑車、ビニロンロープ	木製1車、2車、ロープ10φ

●お問い合わせは……

ORIRO オリロー株式会社

URL : <http://www.oriro.co.jp> e-mail : oriro@oriro.co.jp

本社	〒112-0001	東京都文京区白山4-25-6 TEL. 03-3814-7744 FAX. 03-3813-2909
札幌支店	〒060-0008	北海道札幌市中央区北8条西24-1-3 TEL. 011-640-7744 FAX. 011-615-8299
東北支店	〒983-0043	宮城県仙台市宮城野区萩野町1-16-6 TEL. 022-208-7744 FAX. 022-208-7747
北関東支店	〒350-2201	埼玉県鶴ヶ島市富士見4-28-35 アークバレス1F TEL. 049-279-7744 FAX. 049-279-7745
横浜支店	〒232-0061	神奈川県横浜市南区大岡2-17-24 TEL. 045-277-7744 FAX. 045-277-7745
名古屋支店	〒454-0921	愛知県名古屋市中川区中郷3-383 TEL. 052-352-7744 FAX. 052-352-7775
浜松出張所	〒435-0014	静岡県浜松市東区大蒲町67-12 ミソソルセ-101号室 TEL. 053-541-7744 FAX. 053-541-7745
大阪支店	〒552-0007	大阪府大阪市港区弁天2-14-24 TEL. 06-6572-7744 FAX. 06-6574-2994
九州支店	〒815-0031	福岡県福岡市南区清水3-9-21 TEL. 092-551-7744 FAX. 092-511-6555
新潟営業所	〒959-0227	新潟県新潟市東区津山王724 TEL. 0256-92-7744 FAX. 0256-92-4949
メンテナンス部	〒112-0001	東京都文京区白山5-1-3-7F TEL. 03-3815-7744 FAX. 03-3815-7745
埼玉工場	〒355-0324	埼玉県比企郡小川町青山745 TEL. 0493-72-7744 FAX. 0493-74-0869
新潟工場	〒959-0227	新潟県新潟市東区津山王724 TEL. 0256-92-7744 FAX. 0256-92-4949

●本製品は予告なく変更することがあります

2018.07 改訂版



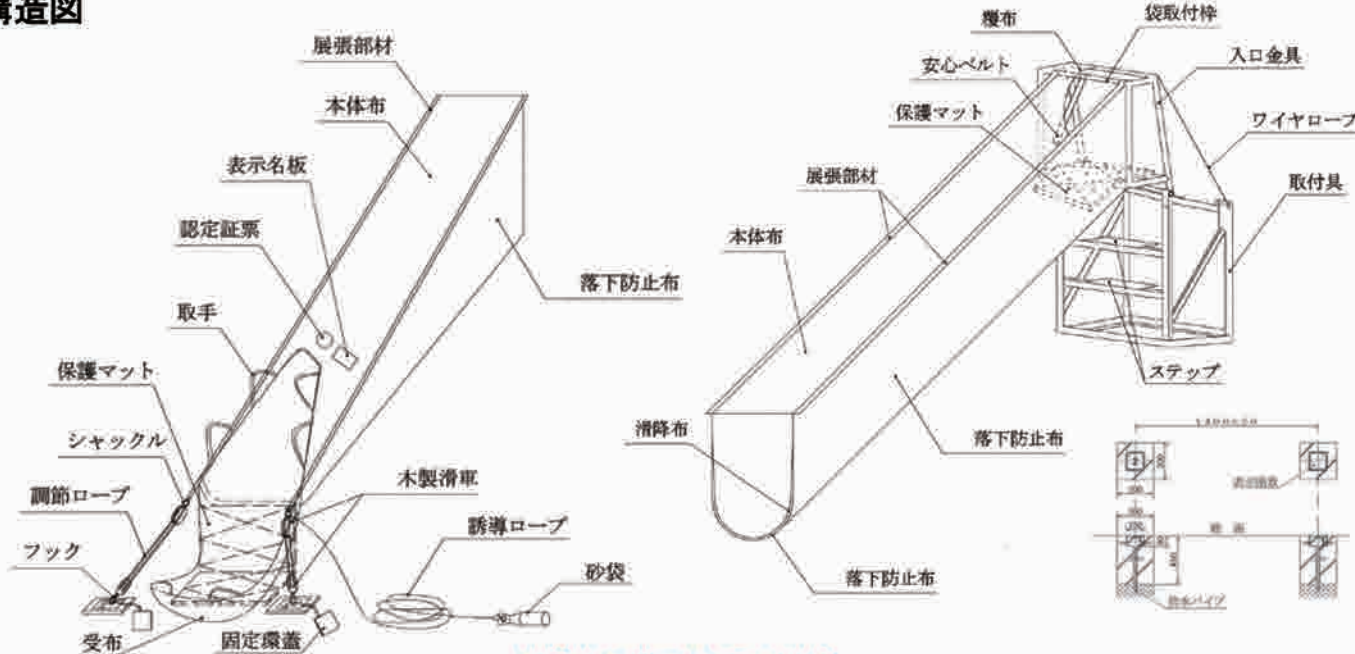
一般財団法人 日本消防設備安全センター
認定番号 ふS-005-1号 (F-1)

斜降式救助袋 (F-1)

一般財団法人日本消防設備安全センター
認定番号 ふS-005-1号



構造図



斜降式救助袋の構造

半円形の筒状の袋本体は約45度の角度に展開し、滑降面は落下防止布を設けた2重構造。袋本体上部に2本の展張部材(ベルト)を縫着させ、袋本体に加わる荷重を保持する構造です。

特長

1) 強く、軽い

ポリエステル特殊加工帆布を使用し、従来の袋より約2倍の強度を保ちます。軽量のため、操作は簡単です。

2) 安全と安心感

滑降面は、落下防止布を設け2重構造とし、展張部材(ベルト)2本を設け、外界が見えないため、恐怖感がなく安全に降下できます。

3) 連続降下が可能

降下速度を一定にするため、本体の傾斜は約45度。連続にも十分耐えられる構造です。

4) コンパクト設計操作が簡単

従来の器具よりもコンパクトな設計で軽量に。老若男女問わず操作可能です。

	設置位置			
	開口部の大きさ	操作面積	降下空間	避難空地
救助袋(斜降式)	高さ 0.6m以上 幅 0.6m以上	1.5m以上 救助袋の設置部分を含み、幅1.5m奥行1.5m以上とする。 なお、特に操作に支障のない範囲で、2.25㎡以上の面積で形状を変えることができる。	1.0m 25° 1.0m 30° 1.0m 25° H(m) L=H×0.2	2.5m 1.0m以上 1.0m以上
備考	1 開口部は、入口金具を容易に操作できる大きさであり、かつ、使用の際、袋の展張状態を設備位置近くの開口部等(設置開口部も含む)から確認できること。 2 防火対象物の側面に沿って降下する場合は降下空間は、救助袋と壁面との間隔(最上部を除く)は、0.3m(ひさし等の突起物のある場合は突起物の先端から0.5m(突起物が入口金具から下方3m以内の場合は、0.3m))以上とすることができる。			

斜降式救助袋取扱説明

斜降式操作方法(上部操作)

①格納箱を取り外す(分解型)



1. 上ふたの両側についている止め金具をはずし①、取手を持って上ふたを取りはずす。②
 2. 前板の両側についている止め金具をはずし③取手を持って前板をとりはずす。④
 3. 救助袋の取り付けた開口部の窓、カーテン、ブラインド等を完全に開放する。
- ！注意一 ●格納箱の止め金具に指をはさまれないようにすること。指等に、ケガをする恐れがあります。(手前引き型は、取手を持って手前に引き、取りのぞく。)
- ！注意一 ●手前に強く引くと倒れることがあります。

③袋本体を降ろす



1. 袋本体を先端から徐々に地上に降ろす。①
- ！注意一 ●袋本体を降下させる時、障害物などにより途中で静止した場合は袋本体を引き上げ、降し直すこと。
- 袋本体を降下させる時にサッシの角、止め金具等の障害物に引っ掛からないようにすること。袋本体が損傷をうけることがあります。
- ！警告一 ●袋本体が途中で自重で急速に落下することがありますので、手や衣服を巻き込まれないことと転落等の恐れがあります。

操作方法(下部操作)

地上の固定環にセットする(地上要員)



1. 地上要員は、降下してきた救助袋の階数表示を確認した上で固定環のフタの階数表示と照合しフタを開ける。
- ！注意一 ●階数表示を間違えると正常な展張ができません。
2. 袋本体出口部から接続されている、張設ロープ先端の滑車(2車)に付いているフックを取手よりはずし、袋本体がよじれていないか確認の上、左右のフックを見極めて固定環に1個ずつ掛ける。
- ！注意一 ●固定環にフックを間違えて掛けると、袋本体におねじが生じ正常な展張ができなくなります。



5. 正常に展張されたら受布を持ち、上階の降下者に降下準備完了の合図を送ります。
- ！警告一 ●固定環にフックが正常に掛かっていない場合や張設ロープが充分に固定されていないと、落下等の原因になるので充分に確認すること。

②降下姿勢



1. 両手を上にするか、または胸の上において自然体の姿勢で、かかとをやや上げて背および腰部で滑り降りる。
- ！注意一 ●降下者は、腕や足を急に広げたり突っ張りすると、急ブレーキがかかり、すり傷等を受ける恐れがあるのでしないこと。
- 出口部では、両足が地面に着くまで絶対に立ち上がらないこと。
- 着地前に立ち上がり、左右に脱出すると転倒する恐れがあります。
- 出口部では、正面に向かって脱出し、できるだけ横方向にはいかないこと。

②バンドを引き、砂袋を投げる



1. 袋本体を締め結んであるバンドを手前に引きバンドを解く。①
 2. 誘導線の先端に付いている砂袋を地上に投下する。②
- ！注意一 ●誘導線の輪がもつれていないか確認する。
- 砂袋を投下する時、ひさしや、下階の屋根等の障害物がある場合は、引っ掛からないようにすること。砂袋が途中で引っ掛かると袋の展張ができません。
- 地上に人がいないことを確認すること。地上に人がいる場合は、注意して砂袋を投下すること。

④入口金具を回転させる



1. 袋本体が降下し終わったことを確認する。①
 2. 入口金具の両側のワイヤロープ2本を持つ④または入口金具の下端部分のパイプを持つ②を回転させる。②
 3. 入口金具の2段、3段とアームを伸ばす金具は、折り込んだままの状態にて回転させる。③
- ！注意一 ●入口金具を回転させる時、指や衣服等を巻き込まれないこと、ケガの恐れがあります。
- 伸ばさせた状態で回転させると開口部上端に当り回転できないことがあるのでしないこと。
4. 入口金具が一定の所で静止した状態で両側のワイヤロープ2本が正常に展張されているか確認する④
- 2段、3段とアームを伸ばす金具で、入口金具の上端部にバンドの付いているものは、バンドを引く。入口金具の内部よりアーム(支持棒)を伸ばさせ全体が正常に展張されているか内側、外側より確認する。
- ！注意一 ●正常に伸ばされていないと降下できません。



3. 下部支持装置の張設ロープの先端のフックを固定環に引掛け、張設ロープの末端を滑車間のロープの中を通して①、地上高約50cm位の高さになるように充分に引き、ロープを逆方向に引っ張って固定する。②
 - 袋本体の出口部と地上面との高さが50cm位に張設されたら逆方向に引きロープの間に食い込ませ固定する。
 4. 袋本体の出口部に腰を下ろし荷重を掛け、袋本体が左右均等に展張されているか確認する。左右が均等でない場合は均等になるよう調整し、ロープを固定する。②
- ！注意一 ●袋本体が左右均等に展張されていないと、片だるみが生じ降下しにくくなります。

降下方法

①降下する



1. 取付金具に設けられているステップを手前に倒す。① 2. 地上の合図により入口部の上端を持って足より入り、正面にある安心ベルトを持って両足を揃えて降下姿勢をとる。②
- ！警告一 ●降下者は、頭から袋の中に絶対に入らないこと。
- 頭から地上に着地するため大変危険です。
- 袋の中にいきおひよく入らないこと。加速がつき出口で飛び出すことがあります。
- ！注意一 ●入口金具の入口部で立ち上がらないこと。
- 立ち上がると開口部の枠で頭を打つことがあります。

③地上要員



1. 地上要員は、出口部の受布を持ち、降下者が出口部より飛び出さないように受け止める。受布の注意表示による。
- ！注意一 ●地上要員が受布を持っていないと降下者が飛び出す場合があります。

⚠ 注意喚起 指・衣類のはさみ込み注意